

平成26年度 西東京市立谷戸小学校 学校自己評価表

平成26年度 西東京市立谷戸小学校 学校自己評価表

学校教育目標															
			・元気で、粘り強い子 ・進んで学び、行動する子 ・心の豊かな子												
目指す学校像（ビジョン）															
【目指す学校像】 【目指す児童像】 【目指す教師像】			・子供が生き生きと活動し、教職員が生き甲斐をもって教育活動をし、保護者が信頼協力する幸せ追究の学校づくり ・あたまも強く、体も強く、心も強い子 ・専門職としての誇りを持ち、創意工夫に満ちた授業の充実に努め、子供の心に灯をともしことのできる人間力ある教職員												
本校の実態と課題															
①若手教員が多数おり、児童把握や授業技術など教員の授業力の向上に取り組む。 ②児童の持久力や投力の低下が見られる。また、生活振り返り週間では、自己の生活を見直すきっかけになっている。保護者の協力を得て、自ら健康的な生活に向けて改善できるように健康教育や体力の向上に取り組む。 ③全学級に特別支援の必要な児童がいる。児童一人一人を大切にした指導について特別支援コーディネーターやスクールカウンセラーを交えて取り組む。 ④保護者・地域は大変協力的である。ホームページを通じて最新の情報を発信させる。															
中期経営目標				短期経営目標		具体的方策		評価							
				努力指標(評価基準)		年間		成果指標(評価基準)		年間					
								現況		改善策					
学力の向上	基礎基本の定着とともに、分ける授業・質の高い授業の実現に努める。	基礎・基本の定着を図り、自ら学ぶ力を育てる。	・全員が考えをもち、考えを伝え合う話し合いや発表する場を全学級で設定する。	4	教職員の取組評価がA	4	4	児童の達成度の評価A	4	ペアによる発表やグループでの発表を積極的に取り入れ、全児童が自分が考えたことや思ったことを発表できる機会を設定している。	討論会の実施を含め、今後も積極的に取り入れていく。				
				3	教職員の取組評価がB		3	児童の達成度の評価B							
				2	教職員の取組評価がC		2	児童の達成度の評価C							
				1	教職員の取組評価がD		1	児童の達成度の評価D							
				・各自が年間目標以上の本を読めるようにする。	4	年間60冊以上	4	4	児童の自己評価で、達成度90％以上	4	毎週水曜日を「朝読書の日」として全学級で徹底した。1学期と2学期には読書旬間を実施した。	読書の本として扱うのジャンルについては、再度全教員で意思統一を行う。新刊の紹介方法の工夫や青空読書の導入など、新たな方策を実践していく。			
					3	年間50冊以上		3	児童の自己評価で、達成度80％以上90％未満						
					2	年間40冊以上		2	児童の自己評価で、達成度70％以上80％未満						
					1	年間40冊未満		1	児童の自己評価で、達成度70％未満						
				・全員が各学年で学ぶ漢字の読み書きができるようにする。	4	教職員の取組評価がA	4	4	診断テストで、80％以上が90点以上	3	教科に苦手意識をもつ児童に対しては、月・金の放課後実施の谷戸ゼミを活用して補習を行った。鉛筆の持ち方がとても気になる。	今後も継続していく。鉛筆の持ち方については、全教育活動の中で教員がこまめに声かけをしていく。			
					3	教職員の取組評価がB		3	診断テストで、70％～79％が90点以上						
					2	教職員の取組評価がC		2	診断テストで、60％～69％が90点以上						
					1	教職員の取組評価がD		1	診断テストで、60％未満が90点以上						
				・全員が計算を中心とした基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけるようにする。	4	教職員の取組評価がA	4	4	診断テストで、80％以上が90点以上	3	算数については、3年生以上の児童に2学年下の東京ベーシック・ドリルに全問正解するまで取り組ませ、基礎・基本の徹底を行っている。	4年生については、地域の人材を活用した放課後補習教室を年間をととして実施する。			
					3	教職員の取組評価がB		3	診断テストで、70％～79％が90点以上						
					2	教職員の取組評価がC		2	診断テストで、60％～69％が90点以上						
					1	教職員の取組評価がD		1	診断テストで、60％未満が90点以上						
人権教育	たくましい心を育てる。	人権教育を充実させ、豊かな人間性の育成を図る。	・日常からのあいさつや言葉遣いを継続的に指導し、豊かな人間関係を作る。	4	教職員の取組評価がA	4	4	児童の達成度の評価A	4	6年生が週2回、あいさつ運動を行っている。朝礼やお昼の放送であいさつ運動への啓発活動を行っている。	3学期より5年生が朝のあいさつ運動に加わることで最上級生としての意識をもたせた。来年度も他学年への広がりを考えていく。				
				3	教職員の取組評価がB		3	児童の達成度の評価B							
				2	教職員の取組評価がC		2	児童の達成度の評価C							
				1	教職員の取組評価がD		1	児童の達成度の評価D							
				・いじめの事前防止、早期発見・早期対応に努め、安心した学校生活を送れるようにする。	4	教職員の取組評価がA	3	4	児童の満足度の評価A	3	全校児童を対象としたアンケートと個別面談を実施した。	担任との面談だけではなく、児童の希望があれば他の教員との面談を設定する。			
					3	教職員の取組評価がB		3	児童の満足度の評価B						
					2	教職員の取組評価がC		2	児童の満足度の評価C						
					1	教職員の取組評価がD		1	児童の満足度の評価D						
体力の向上	丈夫な体を育てる。	健康教育を推進する。	・元気いっぱいカード等の取組を年5回以上設定し、睡眠時間・朝ご飯・歯磨き・排便等、基本的な生活習慣の改善を図る。	4	全学年全学級で実施	4	4	児童の達成度の評価A	4	元気いっぱいカードの取組前には、児童に趣旨を説明するとともに、保護者会やプリント等によって各家庭に協力を依頼していく。	睡眠時間を十分に取る・朝ご飯をしっかり食べる・7時までには起床することについては、保護者と児童の双方に強く啓発活動を行っている。				
				3	実施率80パーセント以上		3	児童の達成度の評価B							
				2	実施率60パーセント以上		2	児童の達成度の評価C							
				1	実施率60パーセント未満		1	児童の達成度の評価D							
				・食育の年間指導計画をもとに、各学年に応じた食育指導を推進する。	4	教職員の取組評価がA	4	4	保護者・児童の満足度の評価A	4	6月以降、毎月1回、ランチルーム給食を設定し、給食を食べながら栄養士の指導を受けた。低学年では、自分たちで栽培した野菜を収穫して調理することを行った。	1学期当初は学級づくりが十分でないことや様々な行事が昼休みに設定されている。ランチルーム給食の設定は現状の6月からが望ましい。			
					3	教職員の取組評価がB		3	保護者・児童の満足度の評価B						
					2	教職員の取組評価がC		2	保護者・児童の満足度の評価C						
					1	教職員の取組評価がD		1	保護者・児童の満足度の評価D						
				体力の向上を図る。		・体力テストの結果から、重点項目を定め、楽しい体育の授業を中心に、児童の体力向上を図る。	4	教職員の取組評価がA	4	4	児童の自己評価で、達成度90％以上	4	50m走とシャトルランを重点項目と定めた。シャトルランについては、マラソンジャンプアップへの意識向上を高めることで対応した。	汗をかく準備運動を行い、体力向上や怪我の防止に努める。50m走の強化のために、3・4年生の体育でタグラビーを採用する。	
							3	教職員の取組評価がB		3	児童の自己評価で、達成度80％以上90％未満				
							2	教職員の取組評価がC		2	児童の自己評価で、達成度70％以上80％未満				
							1	教職員の取組評価がD		1	児童の自己評価で、達成度70％未満				
							・学期ごとにジャンプアップ等を設定するとともに、外遊びを日常的に行わせ、児童の体力向上を図る。	4	教職員の取組評価がA	4	4	児童の自己評価で、達成度90％以上	4	冬芝の種まきと養生のために校庭遊びができなくなる期間を活用するため、新たに「長なわジャンプアップ」を設定した。	ウォーキングジャンプアップについては、低学年が万歩計の取り扱いに不慣れなことや管理の徹底に困難があるため、内容を一部変更する。
								3	教職員の取組評価がB		3	児童の自己評価で、達成度80％以上90％未満			
								2	教職員の取組評価がC		2	児童の自己評価で、達成度70％以上80％未満			
								1	教職員の取組評価がD		1	児童の自己評価で、達成度70％未満			
特別支援教育	一人一人を大切に、特別支援教育を推進する。	特別支援教育の充実に努める。	・個別指導計画・個別支援計画をもとに、児童一人一人を大切に教育支援を進めるとともに、ユニバーサルデザインを意識した授業を進めていく。	4	教職員の取組評価がA	4	4	保護者・児童の満足度の評価A	4	スクールカウンセラーや巡回相談員を活用し、特別支援を必要とする児童への対応を行った。	全教員がユニバーサルデザインについての講演会に参加して知識を深めた。来年度より本格的に研究を進め、実践していく。				
				3	教職員の取組評価がB		3	保護者・児童の満足度の評価B							
				2	教職員の取組評価がC		2	保護者・児童の満足度の評価C							
				1	教職員の取組評価がD		1	保護者・児童の満足度の評価D							
地域との連携	地域に開かれた学校づくりを行う。	安心・安全な学校づくりを行う。	・育成会・保護者・学校が分担してパトロールを行い、日常的に児童の安全を見守る環境を整える。	4	教職員の取組評価がA	4	4	保護者・地域の方の満足度の評価A	4	毎週木曜日にいこいの森を中心とした地域の見回りを行った。7月4日には、PTAと合同で通学路の合同点検を行った。	バス通り側のフェンスを一部移動して見通しを良くしたことで、登下校中の児童と自転車との接触事故が減った。今後も市教委と連携して児童の安全を確保していく。				
				3	教職員の取組評価がB		3	保護者・地域の方の満足度の評価B							
				2	教職員の取組評価がC		2	保護者・地域の方の満足度の評価C							
				1	教職員の取組評価がD		1	保護者・地域の方の満足度の評価D							
		地域に積極的に貢献する。	・学校は、開校60周年記念行事を地域・保護者とともに取り組む。また、地域行事に関わり、積極的に参画する。	4	教職員の取組評価がA	4	4	保護者・地域の方の満足度の評価A	4	地域行事に学校教職員の積極的な参加があり、相互交流が進められた。周年の式典には、たくさんの保護者が当日の式の運営に協力をいただいた。	今年度より「市民まつり」への参加を3～5年生とした。今後も継続して参加する。				
				3	教職員の取組評価がB		3	保護者・地域の方の満足度の評価B							
				2	教職員の取組評価がC		2	保護者・地域の方の満足度の評価C							
				1	教職員の取組評価がD		1	保護者・地域の方の満足度の評価D							
	最新の学校教育情報を提供する。			・学校メール・学校ホームページによる最新情報の発信及び、学校・学年・学級・専科・研究から通信を定期に発行する。	4	教職員の取組評価がA	3	4	保護者の満足度の評価A	3	学校ホームページ更新のため、行事ごとに教員に係を割り振った。	行事後の発信のタイミングが遅くならないよう、担当からの声かけを常に行っていく。			
					3	教職員の取組評価がB		3	保護者の満足度の評価B						
					2	教職員の取組評価がC		2	保護者の満足度の評価C						
					1	教職員の取組評価がD		1	保護者の満足度の評価D						